

令和7年度

角田市教育委員会事務事業点検評価報告書

(令和6年度実施事務事業分)



令和8年1月

角田市教育委員会

目 次

1 点検評価について	1
------------------	---

(1)概 要

(2)目 的

(3)点検・評価に対する事務の対象

(4)点検・評価の方法

(5)評価結果の取扱い

2 点検評価結果	10
----------------	----

3 ま と め	17
---------------	----

Ⅰ 点検評価について

(1) 概 要

点検評価は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、角田市教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行うものです。

(2) 目 的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、すべての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会です。

その役割は、専門的な行政官で構成される事務局を、様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督し中立的な意思決定を行うものとされています。

教育委員会が、教育長以下の事務局を含む広い意味での教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(3) 点検・評価に対する事務の対象

「第2期角田市教育振興基本計画」に定める施策に関する事務事業のうち、令和6年度において教育行政の推進上、重要な課題に係るもの及び重点的、継続的な事業、昨年度の事務事業において課題があるとされているもので継続して評価すべき事業、その他点検評価を行うことが必要と認める事業を対象とします。今回は5事業を重点的な事業対象とし点検評価しました。

(4) 点検・評価の方法

対象となる事業ごとに、必要性、効率性、公平性の観点から教育委員会事務局内部による自己総合評価を行い、さらに点検評価の客観性を確保するために教育に関する有識者の意見を聴取し、点検評価表を作成しました。

この点検評価表を基に、教育委員会(定例会等)で点検評価を再検証し、最終的に事務事業点検評価報告書としてまとめました。

有識者については、事務局職員等以外の教育に関して公正な意見を述べることを期待できるよう、教育に関する学識経験者、保護者等3名の有識者を委嘱しました。

角田市教育委員会事務事業点検評価有識者

区 分	氏 名	備 考
(1) 児童生徒の保護者の代表者	一條 紅根	角田中学校生徒の保護者
(2) 教育に関する学識経験を有する者	武者 幾子	元小学校教職員
(3) その他教育委員会が適当と認める者	神長 敏郎	新丁西行政区長

(5)評価結果の取扱い

この点検評価結果について、評価の高い事業については、引き続き実施し、評価の低い事業については、課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討し、翌年度以降における施策、事業の改善に役立てるものとします。

第2期角田市教育振興基本計画の施策の展開

I 施策の全体体系

【本市教育の基本理念】						
<h1>学びって楽しい！</h1> <p>～持続可能な社会を実現する人づくり～</p>						
基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6	基本目標7
夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、未来を創造する力を育成します。	豊かな感性と健やかな体を持ち、かけがえない命を大切にすること、子供を育成します。	学校・家庭・地域の連携の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくれます。	あらゆる世代が生きがいを持って学び、活躍できるように生涯にわたって学習ができる機会の充実を図ります。	地域に伝わる歴史・文化遺産を大切に保存活用しながら、次世代に引き継ぎます。	市民一人一人が人生を豊かに過ごせるよう文化芸術活動を推進します。	明るく楽しく健康で活力あるまちの実現を目指し、生涯スポーツを推進します。
第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり 1-（1）確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成 1-（2）時代の要請に応える教育環境の整備	第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり 1-（1）確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成 1-（2）時代の要請に応える教育環境の整備	第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり 1-（1）確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成 1-（2）時代の要請に応える教育環境の整備 第2節 2-（1）生涯学習の充実	第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進 2-（1）生涯学習の充実	第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進 2-（2）歴史・文化資源の保存活用	第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進 2-（3）文化芸術活動の推進	第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進 2-（4）スポーツによるまちづくり

2 分野別施策

第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり

(1) 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成

【求められていること】

- 基礎学力の定着や健やかな体づくりといった、これまでの教育を引き続き進めることが必要です。
- 技術革新等により社会の変化が速まる中、これまで推進してきた「自ら学び、自ら考える力」を育む教育が、引き続き求められており、今後とも取り組む必要があります。
- いじめ問題や不登校の児童生徒が減らない現状であり、いじめや不登校への対応、児童生徒一人ひとりに対応したきめ細かな対応が求められています。
- 子育てを学ぶ機会の減少や地域のつながりの希薄化などにより、家庭や地域の教育力の低下が懸念されていることから、一層の対応が必要です。
- 人口が減少する中、地域を維持することが大きな課題となっています。基本となる地域社会を理解するためのコミュニティ教育を進めることが必要です。

【取組目標】

- ①学びの楽しさを通して確かな学力の定着を図るため、教育環境の整備を進めます。
- ②豊かな心と健やかな体を持った児童生徒を育成するとともに、児童生徒が将来の社会人としてより良い生き方を主体的に求めていく教育活動を展開します。
- ③いじめなどを防止し、安心して学校生活を送ることができるよう、一人ひとりの児童生徒に配慮します。
- ④家庭・地域との連携を図り、活力や特色のある地域に開かれた学校づくりに努めます。

【主な施策】

- ①児童生徒の学習意欲の向上、個性や能力を伸ばす機会を増やす取り組みを行うとともに、家庭学習の習慣を身に付けることで、基礎学力の定着を図ります。
- ②豊かな心と広い視野、健やかな体を持った児童生徒を育成するため、宇宙教育の推進やICT（情報コミュニケーション技術）を活用した学習環境、保健体育科の授業や部活動の充実により、未来社会に対応できる創造性豊かでたくましい児童生徒の育成を図ります。
- ③いじめや不登校への対応のため、学校・家庭・地域及び関係機関との連携強化により、未然防止、早期発見、早期対応を図ります。
- ④特別な配慮や支援が必要な児童生徒が安心して共に学べる環境づくりを推進します。
- ⑤地域と連携しながら特色ある体験活動や交流活動等を実施するとともに、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域と共に開かれた学校経営を目指します。



▲タブレット端末を活用した授業

(2) 時代の要請に応える教育環境の整備

【求められていること】

- 学校などの教育施設は、教育活動を展開する上での基盤であり、安全で充実した施設にすることが求められています。
- Society5.0を見据えて時代の要請に応えた教育環境の整備が必要です。
- 学校施設の耐震化率は、100%を達成していますが、施設の老朽化が著しく、計画的な改築が必要な施設も出てきており、児童生徒の安全確保のため、施設の補修・改修を計画的に進める必要があります。
- 児童生徒数が減少していることから学校統廃合の検討が必要です。
- 学校給食を提供するため、学校給食センターの設備の入替等を計画的に進めるとともに、調理能力を生かした施設運用の検討が必要です。

【取組目標】

- ①児童生徒の安全確保及びICTなどを活用した学びに対応するため、学校施設の補修・改修などを進めるとともに、教育設備の充実を図ります。
- ②学校給食の提供により、食を通した児童生徒の心身の健全育成を図るため、学校給食センターの適切な運用に努めます。

【主な施策】

- ①老朽化が進む学校施設の補修・改修を計画的に進めるとともに、専門家による施設点検を行い、児童生徒が健康で快適な学校生活を送れるような、安全・安心な環境づくりを進めます。
- ②一人一台端末環境に対応するゆとりある机や余裕のある教室といった環境を整え、時代の要請に応えた設備・施設への整備・改修を進めます。
- ③学校給食センターの施設補修や設備の入替等を計画的に進めるとともに、施設の有効活用を図り、安全・安心な学校給食を提供します。

第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

(1) 生涯学習の充実

【求められていること】

- 学校・家庭・地域が連携し、人づくりの「原点」である体験活動の機会を意図的・計画的に創出していくことが必要とされています。
- 核家族化やひとり親家庭の増加など、家庭環境の多様化や地域社会の変化による地域のつながりの希薄化により、家族・地域の教育力の向上が必要とされています。
- 地域において、世代を超えて互いに交流しながら、地域や暮らし、各々の生きがいを共に創り、高めあえる社会を実現するため、誰しものが生涯を通じて学び、地域に参画し、豊かな知識・技術・経験を生かせる環境整備が必要です。
- 図書館には、多様化する市民の学習意欲に対応するため、市民の生涯学習の中核としての役割が求められており、各世代の要望や、市民の学習意欲の高まりに応じるため蔵書の充実に努める必要があります。

【取組目標】

- ①人生100年時代を見据え、全ての人が生涯を通じて自らの人生を設計し活躍することができるよう、必要な知識・技能の習得、知的・人的ネットワークの構築や健康の保持・増進に資する生涯学習を推進します。
- ②市民の生涯学習の中核となる公共図書館の役割を再認識し、学びの楽しさを実感できる図書館活動を通じて市民の生活・文化・教養の向上と豊かな地域づくりに努めます。

【主な施策】

- ①「誰しものが先生であり生徒」というコンセプトに基づき、角田市内全部をキャンパスとして多様な対話やつながりへのきっかけづくりを行う「かく大学」を通じて、市民の自由な学びの場を創出し、地域課題の解決や地域の活性化に向けた市民による主体的な活動を支援します。
- ②教養、防災、環境、子育て等の講座やワークショップ等を通じ、知識や教養を身に付け、高齢者の生涯学習の推進、女性の活躍の場を広げる機会を創出します。
- ③地域の多様な主体が連携協力しながら、子供たちの体験活動等の充実を図り、幼児期における教育の質の向上、家庭・地域の教育力の向上、地域学校協働活動の推進を図ります。
- ④ICTの進展に対応し、市民の主体的な学習活動を支援するため、デジタル環境の整備を図ります。
- ⑤生涯にわたる読書習慣の形成のため、利用しやすい図書館としての環境整備を図り、若い世代にも対応した資料の収集と適正な蔵書に努め、学習機会の提供を推進します。



▲子ども図書館

(2) 歴史・文化資源の保存活用

【求められていること】

- 少子高齢化等の急激な社会の変化により、地域に伝わる祭りや郷土芸能等の継承が課題となっています。
- 令和2年度に実施した市民意識調査によれば、歴史・文化資源の保存活用に関する施策を重要であると感じている市民の割合が低く、保護継承に対する意識が低いことが課題となっています。
- 近年多発する災害や経年劣化による建物への影響を考慮しながら、指定文化財である郷土資料館を適正に保存活用していくための具体策の検討が課題となっています。

【取組目標】

- ① 地域に所在する文化財（文化遺産）を、まちづくりなどの分野にも生かしつつ、地域社会総がかりで継承していく取組みの充実を図ります。
- ② 郷土資料館を文化遺産の価値や魅力を身近に体感できる中心的施設に位置付け、学習や情報発信の場としての活用を推進します。

【主な施策】

- ① 伝統文化・行事の記録化を進めます。
- ② 地域における人づくり、地域づくりを担う中核人材を育成し、地域の文化財資源の保存・活用、保存団体の復活支援を図ります。
- ③ 国史跡である梁瀬浦遺跡（北郷）や古代の伊具郡の役所跡とされる角田郡山遺跡（枝野）をはじめとした重要な遺跡の保存と積極的な活用を図ります。
- ④ 「牟宇姫への手紙」や角田城での様子を記録した「内留」など、地域や資料館に残る古文書をはじめとした歴史資料の調査研究を推進し、歴史や文化等に関する市民の関心を高めます。

（３）文化芸術活動の推進

【求められていること】

- 日本固有の文化芸術を支えてきた世代が高齢化しており、伝統芸能や生活文化を次世代に確実に引き継ぐことが重要になります。
- 全ての市民が様々な文化芸術に触れる機会を増やすことにより、暮らしの活力の維持・向上を図ることが重要です。
- かくだ田園ホールを中心に、市民主体の様々な文化芸術活動拠点として利用しやすい環境整備を図る必要があります。

【取組目標】

- ①文化芸術活動の担い手の育成を図るとともに、市民参加型公演事業などを通じ、市民が文化芸術にふれる機会の拡充に努め、文化芸術活動の拠点となるかくだ田園ホールの活用を図ります。

【主な施策】

- ①世代を問わず、市民力を生かした創作活動や発表の場を創出し、市民による様々な文化芸術活動を推進するために、かくだ田園ホールを活用し、多様な文化芸術に触れる機会を創出します。
- ②地域の文化芸術団体、企業、学校等と連携した文化芸術活動を支援し、多様な文化活動をつなぐ文化芸術活動のネットワークを構築します。
- ③児童生徒が文化芸術活動に親しむ機会の創出を図るとともに、全国的に変革期を迎える中学生等の文化部活動の実施環境の充実が図られるよう、地域の多様な主体と連携し、持続可能な部活動の環境を整備します。
- ④かくだ田園ホールを活用した多彩な文化芸術の鑑賞機会を充実させるとともに、利用しやすい環境を創出し、地域の芸術家、文化芸術団体、市民等による文化芸術活動での幅広い利用を促進します。

(4) スポーツによるまちづくり

【求められていること】

- 本市のスポーツ振興は、県内有数のスポーツ施設であるかくだスポーツビレッジを拠点として、角田市スポーツ推進計画に基づき総合的に推進しています。
- 小中学生の体力は、全国平均に近付きつつあるものの、スポーツをする子供と、しない子供の二極化の傾向が顕著となっており、スポーツを好きになってもらう取組が必要です。
- 本市の成人のスポーツ実施率は向上傾向にあるものの、全国平均に比べると低い状況であり、スポーツをしていない方々に新たにスポーツを楽しんでもらう取組が必要です。
- かくだスポーツビレッジのスポーツ施設は、設置から年数が経過していることから施設の補修を計画的に進め、利用者の安全性を確保する必要があります。

【取組目標】

- ①スポーツにより明るく楽しく健康で活力あるまち（アクティブシティかくだ）の実現を目指します。

【主な施策】

- ①スポーツをしていない方々にも新たにスポーツを楽しんでもらえるように、スポーツが「楽しく、さわやかで健康につながる活動であること」や「日常における身体活動（散歩、清掃、家事など）」も意識的に体を動かすことは全てスポーツであることを広く周知し推進するために、全市民による健康づくりイベント「角田市チャレンジデー」を開催します。
- ②ライフステージに応じたスポーツ活動を推進していきます。特に、元気な子供を育成し、生涯スポーツを楽しむ基盤づくりのため、乳幼児に「楽しく体を動かす運動あそび」を提供する「かくだ版アクティブチャイルドプログラム」を実施します。さらに、全国的に変革期を迎えている中学校での部活動について地域スポーツと連携し、持続可能な在り方について検討し見直しを図ります。
- ③誰もが快適にスポーツに親しむことができるようにかくだスポーツビレッジ等を有効活用し、さらには、自然と体を動かしたくなる、動かしてしまう環境の在り方を検討します。

2 点検評価結果

【分野別施策 第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり】

(1) 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成

事業名		中学校教育活動事業
事業の目的		生徒が自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く課題を解決する資質や能力を育成するための教育活動を支援するもの。
事業の内容		<p>○「総合的な学習」でテーマに沿って学習するなかで、生徒が自ら課題を見つけて考えることで問題を解決する能力の育成を図る。</p> <p>○中学校の教員が使用する指導者用デジタル教科書のライセンス契約を締結する。</p> <p>○平日の部活動において、技術的指導ができる部活動指導員や外部指導者を配置し、学校部活動の充実及び教員の負担軽減を図る。</p>
評価	成果	<p>総合的な学習の時間は、生徒が調査や発表などを通し課題解決に向けて取り組む教育活動の一つであり、それらにかかる経費を支援した。</p> <p>指導者用デジタル教科書については、教員が紙媒体の教科書とデジタル教科書の両方を利用でき、より良い授業を行えるよう環境を整備した。</p> <p>平日の部活動においては、部活動指導員と外部指導者を配置し、部活動の充実と顧問教員の負担軽減を図った。</p>
	課題	<p>総合的な学習を通して、生徒たちは他の教科学習にはない多くのことを学んでいる。それらは生徒にとって将来的にも役立つスキルとなるため、継続した支援を行う。</p> <p>教員が従来の紙の教科書とデジタル教科書を効果的に使い分けながら生徒の学力向上につながる授業を行えるよう、今後も環境整備を継続していく。</p> <p>部活動指導員や外部指導者については、人材確保が困難な原因を分析し、引き続き学校の要望を取り入れながら対応していく。</p>

		<p>また、部活動は技能の習得や技術向上だけでなく、仲間との交流を通して社会性を身につけられる場でもあることから、生徒一人ひとりの成長を大切に する指導が行われるよう支援する。</p>
--	--	--

事業名		学校運営協議会事業
事業の目的		市内小中学校に学校運営協議会を設置し、各学校の学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく。
事業の内容		<p>学校運営協議会では、学校長が示す「学校運営に関する基本的な方針の承認」を行うことのほか、「学校や教育委員会への意見の申出」、「教職員の任用に関する意見の申出」を行っている。</p> <p>また、近年、学校や地域が抱えている課題は複雑かつ多岐にわたっており、学校だけ、地域だけで解決することが難しくなっていることから、学校は地域の意見を取り入れ、地域との連携・協働を図るために協議を行う。</p>
評価	成果	<p>令和5年度は中学校2校にとどまっていた学校運営協議会だが、令和6年度に小学校5校にも設置したことから、市内の全小中学校に学校運営協議会を設置することができた。</p> <p>また、各学校長が作成した翌年度の学校運営の基本方針の承認がなされたほか、令和6年度の教育活動や学校評価、標準学力調査の結果分析など、学校の教育活動全般について説明・協議が行われた。</p>
	課題	<p>各学校の学校運営協議会における協議や取組みの状況には差がある。</p> <p>学校側から積極的な情報提供を図るとともに、協議会・学校・地域・家庭が連携して、子どもたちにとって魅力的で特色のある学校づくりを進められるよう、各学校運営協議会において熟議を重ねていく必要がある。</p>

事業名		子どもの心のケアハウス運営事業
事業の目的		角田市立小・中学校に在籍する児童生徒のうち、心理的、情緒的理由等により登校できない状態又は不登校傾向の状態にある児童生徒に対する適応指導等を組織的かつ計画的に行い、児童生徒の居場所の確保や社会的自立を目指すことを目的とする。
事業の内容		不登校等の児童生徒及び保護者に対し、教育相談・生活相談及び学習指導等の支援を通して、不登校児童生徒の社会的自立や学校生活への自発的な復帰を促す。
評価	成果	<p>教育現場に精通した教職員経験者を主任指導員として任用し、学校、スクールソーシャルワーカー、児童生徒生活指導員、子育て支援課など関係機関と連携することで、不登校児童生徒及びその保護者に対して、きめ細やかな支援を行うことができた。</p> <p>特に高等学校への進学を目指す生徒に対しては、学校見学に指導員が同行するなど、学校と連携した支援を実施し、進路選択や学校生活への移行を支えることができた。</p>
	課題	<p>学校、児童生徒の抱える問題等は多様化・複雑化し、不登校児童生徒の出現率は、令和5年度からやや減少したものの、依然として高い水準となっている。</p> <p>不登校児童生徒の出現率を下げるためには、個々の状況に応じた早期発見・早期対応が不可欠であり、引き続き、関係機関の一つとして、他の機関と連携を密にした取り組みが必要である。</p>

【分野別施策 第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進】

(1) 生涯学習の充実

事業名	社会教育推進事業
事業の目的	<p>生きる力を身につけながら、自らが問題解決に向けて主体的に行動できる人材を育成することを目指して、各世代に向けて事業を展開する。さらに、休日の部活動を地域展開する。また、地域の人材を学校の支援要請に応じてボランティアとして派遣する体制を整備し、協働教育の充実を図る。</p>
事業の内容	<p>【主な事業内容】</p> <p>① 少年教育事業</p> <p>パフと遊ぼう会、アルプスアルパイン工場見学、やってみよう!だがし屋さん、かくだ田園ホールに巨大水族館をつくろう!ワークショップ</p> <p>② 青年教育事業</p> <p>角田市二十歳の成人式</p> <p>③ 地域学校協働活動事業</p> <p>地域学校協働活動ネットワーク会議、学校支援ボランティア</p> <p>④ 地域クラブ活動事業</p> <p>部活動の地域展開の対象となる種目の運営・指導者については、Kスポ指定管理者への業務委託により実施する。</p>
評価	<p>成果</p> <p>① 少年教育では、ジュニア・リーダーの指導を通じて、集団での遊び方や協調性を育む体験の場を提供することができた。</p> <p>② 青年教育(二十歳の成人式)は厳粛に挙行し、実行委員企画により新成人が主体的に参画することができた。</p> <p>③ 地域学校協働活動では、学校支援ボランティア派遣体制を整え、地域の多様な主体と連携して学校教育の充実と青少年の健全育成に寄与することができた。</p>

		④ 地域クラブ活動は年次計画どおり地域展開が進み、教職員の働き方改革と生徒の休日活動の受け皿確保に資することができ、令和 6 年度は、10 月から新種目の順次移行を進めた。
	課 題	<p>① ジュニア・リーダーの人員確保が課題であり、学校配布チラシや市 HP・SNS での周知強化により募集を進めていく。</p> <p>② 成人式の実行委員企画は、祝福と自覚（成人を迎える節目を祝福し、社会の一員としての自覚を醸成する）を明確な目的として位置づけ、事前打合せで内容と役割を共有し、より実践的で記憶に残る内容へ工夫していく。</p> <p>③ 地域学校協働活動では、今後もネットワーク会議を開催し、各小中学校区の実施状況や成果の情報交換を通じて相互の連携を強化し、学校支援ボランティアは学校と連携して継続実施していく。</p> <p>④ 地域クラブ活動の地域展開は、学校側と丁寧に調整し、専門コーチの強みを生かして、生徒一人ひとりに応じた安全で効果的な指導を徹底していく。</p>

(2) 文化芸術活動の推進

事業名		企画・展示事業
事業の目的		母屋と米蔵を整備した展示室において、歴史・民俗資料や市内の代表的な遺跡の出土品等を常設展示する。また、市の指定文化財である旧氏丈邸の建物も含め、多くの観覧者に見学する機会を与え、理解を深めてもらうため、調査研究成果に基づいた企画展や催事を行う。
事業の内容		<p>【催し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「甲冑展」4月20日～5月12日 開館日数:21日間 ・「七夕展」7月2日～8月18日 開館日数:41日間 ・「夏休み!昆虫展」7月20日～8月18日 開館日数:25日間 <p>【企画展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「姫さまの暮らしとお道具」9月21日～11月17日 開館日数:50日間 ・「雛人形」2月15日～3月9日 開館日数:21日間 <p>【常設展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏家家(郷土資料館)関係資料、石川氏関係資料、阿武隈急行関係資料等展示
評価	成果	職員による調査研究の成果を活用した企画と展示の他、歴史的な事実に即した事業の展開など、他市町の資料館との違いを出すなど工夫した結果、入館者の多くに満足してもらい、その数も大きく増加した。
	課題	広報について様々なメディアの活用も積極的に実施しているが、より速報的な要素としてSNSの活用を積極的に取り入れるなど工夫が必要である。

3 ま と め

近年、我が国を取り巻く社会環境は大きく変化しています。人口減少・少子高齢化の進行、高度情報化や国際化の進展、家庭環境の多様化などに伴い、教育分野にはこれまでとは異なる迅速かつ柔軟な対応が求められています。このような状況の下、教育委員会は開かれた運営と活発な議論を推進し、諸施策を適正かつ円滑に実施していく責務を担っています。

令和6年度の教育委員会定例会などでは、議案の議決や報告事項にとどまらず、各事業や課題についても積極的な審議と協議が行われました。

学校教育分野においては、令和6年3月に設置した「角田市学校適正規模検討委員会」において、令和2年1月に策定した「角田市学校の適正規模等に関する基本構想」の第3次行動計画を具体化するための協議が進められ、その報告書を取りまとめ教育委員会へ提出されました。これを踏まえ、教育委員会は、『角田市学校の適正規模等に関する基本構想「第3次行動計画構想」に基づく学校再編・統合の具体化方針』策定いたしました。

また、社会教育分野では、市民が芸術文化に触れる機会や、芸術活動の成果を発表する場を積極的に提供することで、芸術文化活動の向上と活性化を図ることができました。今後も事業を通じて地域・社会・学校関係者等、多くの方々と意見交換の場を設け、市民と現場との意思疎通を図りながら、一層の教育委員会の活性化を目指してまいります。

令和6年度の事務事業点検評価に際しては、3名の有識者から幅広い見地に立った貴重な外部意見を頂戴いたしました。総評としては、期待に沿う評価もありましたが、事業の問題点や改善点のご指摘・ご提案、さらに充実と発展への要望など、建設的な意見が多数寄せられ、本市教育行政をさらに前進させるうえで大変参考になる内容でした。

今回の事務事業点検評価の結果は、市議会をはじめ市民の皆様に公表・報告することにより、事業の有効性を常に意識しながら諸施策を遂行し、教育行政の一層の推進に努めてまいります。

角 田 市 教 育 委 員 会